

皆さんの寄附で守谷のまちづくり ～ふるさとづくり寄附条例～



●問合先 市役所財政課 財政G 内線 211
FAX 45 - 2590

市では、「守谷市ふるさとづくり寄附条例」を制定し、市民の皆さんや、他の地域に暮らしていても守谷市への共感やふるさととしての思いをお持ちの皆さん、さらには企業の皆さんに寄附金を募り、その貴重な財源をもとに個性的で魅力あるまちづくりを進めています。皆さんの応援をお待ちしています。皆さんからいただいた寄附金は、次の4つの事業に使用させていただきます。寄附される際に、寄附金の使途を指定してください。

- ・自然環境の保全および緑化の推進に関する事業
- ・福祉施策の充実に関する事業
- ・教育、文化活動およびスポーツ振興に関する事業
- ・市民公益活動の促進に関する事業

私立幼稚園就園奨励費補助金・ 私立幼稚園児保育料補助金の申請

●問合先 市役所児童福祉課 保育G 内線 152、153

○私立幼稚園就園奨励費補助金

私立幼稚園に在園する児童の保護者に対し、市町村民税の所得割額（父母等の合算額が211,200円以下の世帯）に応じて補助金が交付されます。今年度から、小学3年生までに兄・姉がいる世帯の保護者に対しては、所得に関係なく、補助金が交付されます。

○私立幼稚園児保育料補助金

所得に関係なく、在園中は月額2,000円／1人が交付されます。

▼申請方法

6月中に幼稚園から配布される申請用紙に必要事項を記入の上、通園する幼稚園へ提出

※他市町村の幼稚園へ通園している方で、申請書が届かない方は、問合先へご連絡ください

▼給付方法 平成27年3月に口座振込

取手市医師会健康教室

子どもの誤飲

子どもたちの日常に潜んでいる危険は、感染症ばかりではありません。むしろ「それ以外のもの」の方が、時に健康や生命を脅かす重大な結果を招くことがあります。注意が必要です。

がん・心臓病・肺炎が三大死因の成人とは違って、乳幼児や学童では、先天異常や事故・小児がんが死因のトップを占めます。なかでも「不慮の事故」はその他の原因と違い、子どもたちの日常生活の中に直接の原因があり、その数も0歳児で死因の第4位、1～4歳児で同2位、5～9歳児では同1位、10歳以上でも同2位と常に上位に位置します。

今回は、そんな日常に潜む不慮の事故の中でも、子どもに特に多い誤飲について紹介します。誤飲とは異物を誤って飲み込んでしまうことで、食物や異物が気道に入ってしまう「誤嚥」とは区別されます。飲み込んでみても害のないものから直ちに受診の必要があるもの

までさまざまですが、特に頻度の多い「タバコ誤飲」について一般的な対処方法を紹介します。

タバコの誤飲

子どもの誤飲の約3割を占め、原因として最も多いのがタバコです。ハイハイなどで自由に移動できるようになる乳児期後半から急増します。最近ではニコチン中毒という言葉が広く一般に知られるようになったため、「口にしたら即病院」という方もいますが、実はちよつと違います。そもそもタバコは苦く、子どもにとつておいしいものではないため、口にしても飲み込んでいないことが多いです。また、仮に飲み込んだとしても、酸性の胃内ではニコチンの溶け出しと吸収にかなり時間がかかるとされ、さらに吸収されると催吐（吐き気を催す）作用を発揮するため胃内に残るタバコを吐き出し、結果的に重い症状が出ることはまれであるとも言われています。

タバコの誤飲で最も危険なのは「吸い殻の入った液体を飲んでしまうこと」です。タバコを水につけると約30分でほぼ全てのニコチンが溶け出します。液状のため速やかに吸収されて重い中毒症状を起こすのです。水を入れて灰皿代わりになっている空き缶やペットボトルなどを誤って子どもが飲んでしまうケースが多く、喫煙者がいる家庭では特に注意が必要です。誤飲してしまった場合、吐かせるのは有効ですが、牛乳や水を大量に飲ませるのは危険です。

タバコ以外にも、医薬品や殺虫剤、おもちゃやボタン電池、貴金属類など挙げればきりがありませんが、誤飲を防ぐ最も有効な手段は共通して、子どもが口にできるものは「見えない・触れない・落ちない」場所に普段から移しておくことです。

母子手帳の後ろの方にも誤飲に関することが書かれていますので、目を通しておくとうれしいでしょう。